

●ISU の発表 (2002.12.27)

第 49 回 ISU 通常総会が 2002 年 6 月に京都で開かれ、すべての緊急提案が公式に受理、投票された。会議ではカナダの緊急提案 No.29 が承認された。これにより、新しいジャッジングの提案が 2002-2003 シーズンのすべての ISU 選手権大会で、また可能ならばその他の国際競技会でもすぐに使用することが認められた。

京都会議ではまた、新ジャッジングシステムと呼ばれる ISU 理事会の緊急提案 No.4 が、修正することなく承認された。これにより、(1)No.4 で述べられている基準に基づき新ジャッジングシステムを開発・試験すること、(2)理事会が可能だと判断すれば ISU の主な競技会で新ジャッジングシステムを実施できること、が認められた。京都会議では緊急提案 No.4 が賛成 81、反対 16 で可決された。(今は ISU 規定 121 条 3 項)

このメディア発表の目的は、緊急提案 No.29(暫定的ジャッジングシステム)の現状に関する情報を提供することと、規定 121 条 3 項から想像される新ジャッジングシステムの試験と進捗状況について報告し、将来の実施に向けた最新の経過を示すことである。

## 1. 暫定的ジャッジングシステム

暫定的ジャッジングシステムが、2002 年のネーベルホルントロフィ(ドイツ)、グランプリシリーズ 6 大会(アメリカ・スポケーン、カナダ・ケベック、ドイツ・ゲルゼンキルヘン、フランス・パリ、ロシア・モスクワ、日本・京都)、ジュニアグランプリファイナル(オランダ・ハーグ)で実施された。

暫定的ジャッジングシステムで採用されたジャッジの無作為抽出方法と、採点の匿名性を保持して作業の質を向上させるための手順を下に要約する。

- いずれかの種目に選手が出場している国は、特別な訓練を受けたジャッジを参加させる権利がある。
- 最大 14 人のジャッジからなるジャッジ団は、現地で開かれる最初の審判会議において選出される。
- 選手権大会では 14 人のジャッジから 9 人が秘密裏に、コンピュータで無作為に抽出され、その 9 人の採点が結果に使われる。
- グランプリ大会、ジュニアグランプリファイナルでは 9 人または 10 人のジャッジから 7 人が秘密裏に、コンピュータで無作為に抽出され、その 7 人の採点が結果に使われる。
- 差し当たり現在の 6 点満点の採点方法を継続して用いる。
- どのジャッジの採点を結果に使うかは、ショートプログラム、フリースケーティング、コンパルソリーダンス、オリジナルダンス、フリーダンスの各競技ごとに、新たに秘密かつ無作為に抽出し直す。
- 全ジャッジの得点は、技術点・表現点を一緒にせず、それぞれを小さい方から順に表示し、どの得点が最終的な結果に数えられているかは示さない。
- 役員にも、ジャッジ、選手、観衆にも、どのジャッジの得点が記録され、結果として出ているかは分からない。
- 競技会後にレフェリーを議長としたイベントレビューミーティングが研修会・セミナーの形で行われる。スケートの質や与えられた得点の幅について特定のジャッジや順位に帰結することなく議論し、許容される順位のグループ(範囲)を決める。

- シーズン中に3度(ジュニアグランプリファイナル、四大陸選手権、世界選手権の各大会後)、ISUの競技会でのジャッジの得点と順位が匿名のまま検討される。これまではシーズン終了後に行われていた。
- 順位や得点の幅に関する異常が、イベントレビューミーティングで承認された許容範囲を基に区別される。
- 明らかな異常や繰り返された異常の証拠があった場合に限り、ジャッジの名前が明らかにされる。
- ジャッジの行いが許される罪でなければ、現在の規則に従って、ISU選手権大会やオリンピックのジャッジとして行動することが即座に禁止され得る。

付加的な詳細については、ISU通知1197を参照せよ。

## 2. 新ジャッジングシステムの開発と試験

2002年6月のISU総会では、集中討論の後、フィギュアスケート、アイスダンス、シンクロナイズドスケーティングの新ジャッジングシステムを開発・実施するための主要な計画が承認された。(緊急提案No.4/ISU規定121条3項)

その後、ISUの専門家チーム(技術委員長 Alexander Lakernik、同委員 Ann Shaw、理事で前技術委員長の Marie Lundmark、顧問の Peter Krick、Ted Barton、Andreas Sigurdsson)が、指導委員会のメンバー(Don Laws、Krisztina Regoczy)と共に新ジャッジングシステムを開発した。新システムは、ISU会長によって出された原案に基づき、京都会議で採択されたISU規定121条3項の基準に従っている。

新ジャッジングシステムの試験は2002-03シーズンの間に行われた。2003-04シーズン初めからの採用を目指し、ISU理事会が準備は整ったと判断した場合に、選ばれた競技会で実施できるようにする。

### A. フィギュアスケート

新ジャッジングシステムは今のところ3つの競技会、ネーベルホルントロフィ、スケートカナダ、ジュニアグランプリファイナルで試験された。試験はどの場所でも、暫定的ジャッジングシステムと平行して行われたが、暫定的ジャッジングシステムの順位だけが競技会の公式記録に使われた。試験のデータは綿密に分析され、システムの改善に活用されている。役員やジャッジ、コーチ、選手の意見は、開発の過程で受け入れられる。

ジャッジは最新のタッチパネル技術を用いて新システムを実行する。新ジャッジングシステムの主な特徴は次の通り。

- 資格を持つジャッジ(ISU加盟国から推薦され、後に新ジャッジングシステムの訓練・教育を受けているジャッジ)からなる審判団は、地域性を考慮に入れたISU発行のリストから選ばれる。
- どのジャッジの得点を結果に使用するかを、秘密かつ無作為に抽出する原則は維持する。

- ジャッジシステムの根底にある原則は、失敗に対して減点するのではなく、演じられた要素一つひとつについて、さらに別の基準についても合わせて評価を与え、積み重ねていくことである。
- 選手のプログラムの各要素には、同意された難易度に応じて基礎点が割り当てられている。
- 演じられた各要素は、要素を確認することだけに対して責任を持つ専門家のグループによってシステムに入力され、選ばれたテクニカルコントローラーによって管理される。
- プログラムの中で要素が演じられるとただちに、ジャッジはその要素の演技の質に対して7段階で評価し、基礎点から加減する。
- さらに、プログラム終了後ただちに、ジャッジは下に示す採点項目に対して個別に0.5きざみで0から10までの点数を入力する。
  - スケーティング能力と技術要素に関するスピード。
  - 要素のつながりと入り方。
  - 音楽に合わせた楽な動きと確実性、身のこなし、スタイルに関する演技力。またペアでは調和。
  - 調和のとれたプログラム構成と選んだ音楽との適合性に関する振付け。
  - 音楽のアクセントや微妙な調子に関する解釈、音楽の特徴やテーマの表現。

#### A1. 得点の加算

- 各要素とその他の採点項目について、それぞれ全ジャッジの平均点を計算する。
- (1)演技の質を加味した技術的要素と(2)スケート技術、(3)要素のつながり、(4)演技力、(5)振付け、(6)曲の解釈の各得点は、種目や階級(ノービス、ジュニア、シニア)に従って、個別に加重する。
- 上に挙げた6項目の合計点が選手・チームの(ショートプログラム、フリースケーティングなどの)得点になる。
- ショートプログラムの得点にフリースケーティングの得点を加えて(行われれば予選の得点も)、競技会の合計得点が算出される(アイスダンスは3つの合計)。
- 選手・チームの最終順位は、競技会の合計得点の高さで決まる。
- ガイドラインは、要素を適切に混ぜバランスのとれたプログラムにするよう勧告し、また、各要素の表現の可能性やアイデア、上達のための工夫についても触れている。
- 自己ベスト、計画している得点、実際に演技された得点、現在の順位などの情報や主な統計は、メディアや一般に公開される。

#### A2. ジャッジに対する評価

ジャッジが確実に責任を果たすため、演技の質やその他の採点項目に与えられた点数に対する評価には、暫定的ジャッジングシステムで考案されたのと同様のものを採用する。

#### B. アイスダンス

フィギュアスケートで説明した採点の原則は、アイスダンスにも有効である。

- 各必須要素、ステップシーケンスには、難易度に応じた基礎点が与えられている。

- 演じられた各要素は、要素を確認することだけに対して責任を持つ専門家のグループによってシステムに入力され、選ばれたテクニカルコントローラーによって管理される。
- ジャッジは、各要素に対して演技の質に応じた「GOE」を7段階の幅で与え、また全体的な採点項目についても点数をつける。

#### B1. コンパルソリーダンス

必須要素、ステップシーケンスの技術については、シングルスケーティングの技術と同様に点数をつける。加えて、下に示す全体的な採点項目について0.5きざみで0から10までの点数をつける。

- 音楽に合わせた動き。
- 2人の間のバランスやユニゾン、ホールド、姿勢、身のこなし、スタイルなどに関する演技力。
- ダンスの特徴の表現や、音楽のアクセントや微妙な調子に関する曲の解釈。
- エッジの深さや質、流れ、きれいさ、ステップの確実性、全体のスケーティングなどに関するスケート技術。

#### B2. オリジナルダンスとフリーダンス

必須要素、ステップシーケンスはテクニカルスペシャリストのグループによって見分けられる。まず(同意された基準に従って)これらの要素の価値が選手の「計算書」に記入され、これにジャッジは「GOE(質)」を採点して加える。加えて、下に示す全体的な採点項目について0.5きざみで0から10までの点数をつける。

- 音楽に合わせた動き。
- 2人の間のバランスやユニゾン、ホールド、姿勢、身のこなし、スタイルなどに関する演技力。
- ダンスの特徴の表現や、音楽のアクセントや微妙な調子に関する曲の解釈。
- エッジの深さや質、流れ、きれいさ、ステップの確実性、全体のスケーティングなどに関するスケート技術。
- フットワークの多様性や難しさ、独創性、スタイル、スピードの変化などに関する技術的なつながり。

結果の算定方法は、フィギュアスケートで述べられているものと同様である。

#### C. シンクロナイズドスケーティング

シンクロナイズドスケーティングのジャッジングシステムは、アイスダンスのものとよく似ている。

- サークル、ライン、ホイール、インターセクション、ブロック、その他広い範囲の動き、またペア要素や、スピン、ジャンプ、ステップシーケンスなど演じられるすべての要素には、難易度に応じた基礎点が与えられていて、テクニカルスペシャリストによって判定される。
- 要素が演じられると、まずその基礎点がチームの「計算書」に記入され、これにジャッジは援護の質に応じて「GOE」を採点して加える。

この他に全体的な項目が、0.5 きざみで 0 から 10 までの範囲で採点される。

- スケート技術
- 要素のつながり
- 演技力
- 振付け
- 曲の解釈

結果の算定方法は、フィギュアスケートやアイスダンスで述べられているものと同様である。

シンクロナイズドスケーティングの競技会における最初の試験は、2003 年 2 月 20-23 日にスイスのヌーシャテルで開かれる国際競技会を予定している。

### 3. 新ジャッジングシステムの試験は肯定的

新ジャッジングシステムは速やかに、そして確実に完成へ進んでいる。ISU は引き続き新ジャッジングシステムの試験と開発計画を最優先にし、新ジャッジングシステムの価値についての質問、提案、討論を考慮に入れながら、実施に向かう。

あいにく新ジャッジングシステムについて、確かな根拠のない批判や間違った主張が、少数の人物やメディアから流されてきた。これに対する適切な答えは、次のことを正確に詳しく話すことだと ISU は考えている。すなわち、フィギュアスケート競技会のジャッジングを本質的に改革し、現代化することが、ISU 総会や ISU 理事会、多くの献身的な専門家・個人によって既に始められ、今も進行中であることを。現在得られている結果は、期待以上の大変楽観的なものである。

技術面の調整は向こう数週間続けられる。そして、より大きな努力の成果が示されて、新ジャッジングシステムの全容や試験の結果、またいかに発展しているかが、スケートを知る人々に説明される。新ジャッジングシステムの影響を受ける選手、コーチ、審判の訓練計画もまた立案中である。訓練には、提供されるセミナーだけでなく、手引書、CD-ROM、テープのような道具も含まれる。

適当な時期に、おそらく 2003 年 3 月末の世界選手権後にワシントンで開かれる理事会で、新ジャッジングシステムの実施に関して更なる決定が下される。ISU 規定 121 条 3 項補足 (b) に定められているように、ISU 理事会によっては ISU の主な競技会で新ジャッジングシステムを実施する可能性がある。しかし、ISU 選手権大会で実施するのは、2004-05 シーズンまでない。

もちろん全ての決定は、ISU 憲法 21 条 2 項に要求されているように、ISU 通知を発行して発表する。